

# 企業の44.6%が 生成AIを活用 効果の実感は8割以上

規模が大きいほど、使いこなし格差が広がる  
情報の正確性・漏洩リスクも懸念

東京都・生成AIに関する企業の動向調査(2026年3月)



本件照会先

袴田 創心 (調査担当)  
帝国データバンク  
東京支社情報統括部  
03-5919-9342(直通)  
情報統括部: tdb\_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/06/22

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。  
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

## SUMMARY

生成AIを業務で『活用している』企業の割合は44.6%だった。うち「業務への効果が出ている」と回答したのは86.8%。主な活用業務は「文章の作成・要約・校正」が最も多く、「情報収集」「企画立案時のアイデア出し」が続く。悪影響・トラブルでは「ない」が68.0%であった一方で、「使いこなし格差の拡大」が18.2%にのぼった。懸念・課題では「情報の正確性」が56.1%で最も高く、「情報漏洩のリスク」「専門人材・ノウハウ不足」「活用すべき業務の範囲」などが続いた。

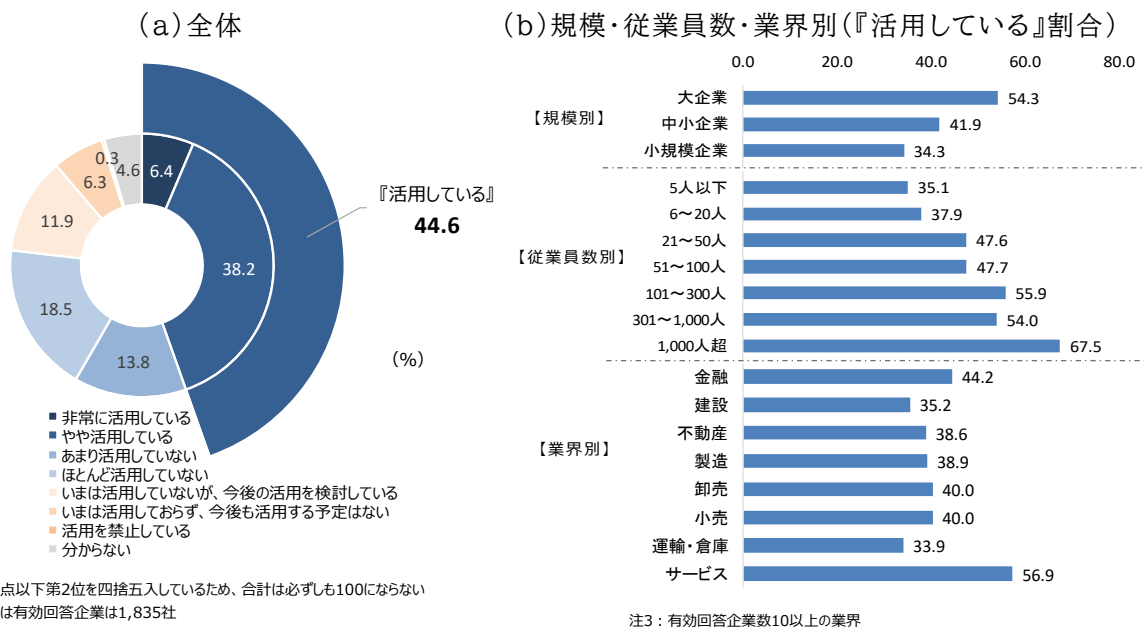
- ※ 調査期間は2026年3月17日～3月31日。調査対象は都内企業3,703社で、有効回答企業数は1,835社(回答率49.6%)。本調査は、TDB景気動向調査2026年3月調査とともに行った
- ※ 本調査における詳細データは、帝国データバンクホームページ(<https://www.tdb.co.jp>)のレポートカテゴリにある協力先専用コンテンツに掲載している

## 企業の44.6%が生成AIを活用、全国を10.1ポイント上回る

帝国データバンクは、生成AIの活用状況について都内企業に尋ねたところ、生成AIを業務で『活用している』と回答したのは、全体の44.6%だった。全国(34.5%)と比べると10.1ポイント上回った。内訳は、「非常に活用している」が6.4%、「やや活用している」が38.2%。東京都には、情報通信業や金融業、専門サービス業といった知識集約型・サービス型産業が高度に集積しており、生成AIの導入・活用メリットが大きく、活用が進みやすい構造となっているとみられる。

一方、「あまり活用していない」は13.8%、「ほとんど活用していない」は18.5%で、低活用層は約3割となった。「いまは活用していないが、今後の活用を検討している」は11.9%で、「活用を禁止している」企業は0.3%だった。

図表1 生成AIの活用状況～全体、規模・従業員数・業界別～



生成AIの活用状況を規模別にみると、大企業では『活用している』が54.3%であるのに対し、中小企業は41.9%、小規模企業は34.3%であった。従業員数別でみると、「1,000人超」では67.5%、「101～300人」と「301～1,000人」でも50.0%を上回る高い水準にある一方で、「5人以下」は35.1%にとどまり、企業規模が大きいほど活用率が高い傾向が明確に表れた。

業界別では『サービス』が56.9%で最も高く、『金融』が44.2%、『卸売』『小売』が各40.0%が続いた。他方、『建設』(35.2%)や『運輸・倉庫』(33.9%)は相対的に低かった。業務の特性や社内体制の違いが、活用の進み方に影響しているとみられる。

## 主な活用業務、「文章の作成・要約・校正」が 39.9%でトップ

生成 AI を業務で活用している企業 818 社に、主にどのような業務で活用しているか尋ねたところ、最も多かったのは「文章の作成・要約・校正」(39.9%)であった。次いで、「情報収集」(24.8%)、「企画立案時のアイデア出し」(11.0%)が続いた。「データの集計・分析」は 8.9%、「コード生成などのプログラミング支援」は 7.5%にとどまった。

規模別にみると、大企業では「文章の作成・要約・校正」への集中度が高く、43.0%を占めた。一方、小規模企業では「情報収集」が 29.0%と全体(24.8%)を上回った。

図表 2 主な活用業務～全体・規模・業界別～

	全体	規模別			業界別								
		大企業	中小企業	小規模企業	農・林・水産	金融	建設	不動産	製造	卸売	小売	運輸・倉庫	サービス
文章の作成・要約・校正	39.9	43.0	38.7	37.5	50.0	42.1	54.4	54.5	40.0	38.0	46.7	42.9	34.8
情報収集	24.8	25.7	24.5	29.0	50.0	21.1	20.6	27.3	26.7	29.2	16.7	38.1	21.5
企画立案時のアイデア出し	11.0	7.9	12.1	9.7	0.0	10.5	5.9	9.1	8.6	11.5	16.7	9.5	12.7
データの集計・分析	8.9	10.7	8.3	9.1	0.0	5.3	10.3	6.8	11.4	8.9	6.7	9.5	8.8
コード生成などのプログラミング支援	7.5	7.0	7.6	4.5	0.0	0.0	0.0	2.3	5.7	3.6	6.7	0.0	13.6
翻訳・外国語の文章の作成	2.6	1.4	3.0	5.1	0.0	10.5	2.9	0.0	1.9	3.6	3.3	0.0	2.1
新たな作業の手順確認	1.8	0.9	2.2	1.1	0.0	5.3	2.9	0.0	1.9	1.6	0.0	0.0	2.1
経理・経費計算などの事務の代行	0.5	0.0	0.7	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.6
社内向けヘルプデスク	0.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	3.3	0.0	0.0
顧客対応の自動化 (カスタマーサポートなど)	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
その他	1.7	1.9	2.3	1.7	0.0	5.3	1.5	0.0	1.9	2.1	0.0	0.0	3.0

注：母数は、生成AIを『活用している』企業818社

## 業務への効果は 86.8%が「ある」と実感

生成 AI を活用している企業に対して業務への効果を尋ねたところ、「大いに効果が出ている」(27.1%)、「やや効果が出ている」(59.7%)を合わせた『効果あり』が 86.8%に達した。一方、「あまり効果が出ていない」(1.1%)、「ほとんど効果が出ていない」(0.2%)を合わせた『効果なし』は 1.3%だった。規模別で見ると、小規模企業の 35.8%で「大いに効果が出ている」と回答しており、大企業の 19.2%を 16.6 ポイント上回った。活用している割合は大企業より 20.0 ポイントも低いものの、活用している小規模企業の積極性が感じられる。

図表 3 業務への効果

	効果あり	効果あり			効果なし	効果なし			分からない／不回答	(N)
		大いに効果が出ている	やや効果が出ている	どちらともいえない		あまり効果が出ていない	ほとんど効果が出ていない			
全体	86.8	27.1	59.7	9.7	1.3	1.1	0.2	2.2	(818)	
大企業	83.2	19.2	64.0	13.1	1.9	1.9	0.0	1.9	(214)	
中小企業	88.1	30.0	58.1	8.4	1.2	0.8	0.3	2.3	(604)	
小規模企業	89.8	35.8	54.0	5.7	2.8	2.3	0.6	1.7	(176)	
農・林・水産	75.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	(4)	
金融	89.5	47.4	42.1	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	(19)	
建設	80.9	26.5	54.4	14.7	2.9	2.9	0.0	1.5	(68)	
不動産	93.2	29.5	63.6	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	(44)	
製造	91.4	24.8	66.7	5.7	1.0	1.0	0.0	1.9	(105)	
卸売	84.4	21.9	62.5	11.5	0.5	0.5	0.0	3.6	(192)	
小売	86.7	16.7	70.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	(30)	
運輸・倉庫	85.7	28.6	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	(21)	
サービス	87.0	31.2	55.8	8.5	2.1	1.5	0.6	2.4	(330)	
その他	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	(5)	

注：母数は、生成AIを『活用している』企業818社

## 企業規模が大きいほど、使いこなし格差が広がる

活用している企業に対して、生成 AI の悪影響やトラブルを尋ねたところ、「悪影響やトラブルはない」が 68.0%で最も多かった（複数回答、以下同）。次いで「AI を使いこなせる社員と使いこなせない社員の間で、能力や成果の格差が拡大した」が 18.2%となった。大企業では 22.9%と全体を上回り、格差が顕著に表れていることが見受けられる。

一方、直接的なトラブルである「出力結果の誤りにより社内外でトラブルや損害が発生した」は 1.6%と相対的に低かったものの、小規模企業（3.4%）では全国と比較すると 1.8 ポイント高かった。活用率の高さが、トラブル等の発生率に影響を与えているとみられる。

また、「社員が業務を AI 任せにして、仕事への意欲やスキルが低下した」（3.5%）、「若手が育たなくなった」（3.4%）といった、人材育成に関する懸念も一定数みられた。生成 AI の影響は、直接的なトラブルよりも、組織運営や人材育成の課題として表れやすいと考えられる。

図表 4 悪影響・トラブル（複数回答、上位 6 項目）～全体・規模別～

	全体	大企業	中小企業 (%)	
			中小企業	小規模企業
悪影響やトラブルはない	68.0	63.1	69.7	69.3
AIを使いこなせる社員と使いこなせない社員の間で、能力や成果の格差が拡大した	18.2	22.9	16.6	15.9
社員が業務をAI任せにして、仕事への意欲やスキルが低下した	3.5	3.7	3.5	4.5
社員から類似した意見や報告が出るようになり多様性が低下した	3.4	4.7	3.0	5.1
基礎的な業務をAIが担うようになり、若手が育たなくなった	2.1	2.8	1.8	1.1
出力結果の誤りにより社内外でトラブルや損害が発生した	1.6	0.5	2.0	3.4

注：母数は、生成AIを『活用している』企業818社

## 生成 AI 活用に関する懸念・課題

生成 AI 活用に関する懸念・課題について尋ねたところ、最も多かったのは「情報の正確性」（56.1%）であった（3 つまでの複数回答、以下同）。次いで、「情報漏洩のリスク」（39.2%）、「専門人材・ノウハウ不足」（38.3%）、「生成 AI を活用すべき業務の範囲」（38.1%）、「トラブル時の責任所在などのルール整備」（25.8%）が続いた。

規模別にみると、大企業では「専門人材・ノウハウ不足」や「情報漏洩のリスク」が相対的に高く、情報管理や統治に対する意識が強い。他方、小規模企業では「システム導入への資金不足」が相対的に高く、コスト面の負担も課題となっている。

図表 5 懸念・課題(3 つまでの複数回答)

	全体	大企業	中小企業	
			中小企業	小規模企業
情報の正確性	56.1	60.2	55.0	54.6
情報漏洩のリスク	39.2	49.5	36.4	31.6
専門人材・ノウハウ不足	38.3	41.9	37.3	32.0
生成AIを活用すべき業務の範囲	38.1	40.6	37.4	31.6
トラブル時の責任所在などのルール整備	25.8	22.1	26.8	25.1
著作権・プライバシー保護など法的規制	21.7	24.6	21.0	22.8
システム導入への資金不足	8.4	5.6	9.2	10.7
懸念や課題はない	3.3	1.8	3.7	4.5
その他	1.1	0.8	1.2	2.3

注：母数は、有効回答企業1,835社

## まとめ

生成 AI をめぐっては、企業全体としても“導入する”から“どう使うか”にフェーズが移行しており、業務効率化や人手不足対応への期待がさらに高まっている。都内に本店を置く企業では、活用度合いが全国と比較して 10 ポイント以上高く、生成 AI の導入・活用が先行していると考えられる。

活用業務としては、「文章の構成や社内マニュアルの作成、契約書の確認、ホームページの改修・顧客対応など、毎日の業務で必ず誰かは使用している」(卸売業)といった声が寄せられ、日常業務の一環として用いられている様子がうかがえる。規模別にみると、小規模企業が最も効果を実感しており、業務の省力化に活用するなど人手の限られた企業ほど効率化を顕著に感じていると見受けられる。

一方、活用に関する懸念・課題として情報の正確性、情報漏洩、専門人材・ノウハウ不足、活用範囲、ルール整備といった課題が上位にあがった。トップとなった「情報の正確性」については、「とても便利なツールだが、必ずしも正しい内容とは限らないため、使う側が内容について正しいか否かを判断できる知識や見識が必要になると思う」(サービス業)といった声もあげられ、業務判断そのものを任せず、使用する側の“リテラシー”が求められる現状だ。

今後は、上記の懸念・課題でもあがったように、導入のスピードだけでなく「安全」かつ「効果的」に使いこなすかが問われる局面へと進むだろう。